

# 2019年度 入学試験問題

## 国 語

(60分)

〔注意〕

- 
- ① 問題は㊦～㊨まであります。
  - ② 解答用紙はこの問題用紙の間にはさんであります。
  - ③ 解答用紙には受験番号、氏名を必ず記入のこと。
  - ④ 各問題とも解答は解答用紙の所定のところへ記入のこと。
  - ⑤ 各問題とも特に指定のない限り、句読点、記号なども一字に数えること。
- 

西大和学園高等学校

問題は次のページから始まります。

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。なお出題の関係上本文を一部改めた部分がある。

「文化による社会包摂」という言葉が、少しずつではあるが世間にもシントウ<sup>ア</sup>してきた。社会包摂<sup>II</sup>ソーシャルインクルージョンとは、要するに、今まで社会から排除されてきた人々を、文化によって社会に<sup>II</sup>つなぎ止める、包み込むという考え方だ。この最も<sup>イ</sup>タ<sup>II</sup>ン<sup>II</sup>テキ<sup>II</sup>な例は、ヨーロッパの多くの美術館や劇場で行われているホームレスプロジェクトというものである。これは、ホームレスの方たちに、月に一回でもシャワーを浴びてもらって、バザーで集めた服に着替えてもらい、コンサートや美術展に<sup>ウ</sup>シヨウタイ<sup>II</sup>するという制度だ。先進国のホームレスは生まれつきホームレスな訳ではない。何かの理由で社会からドロップアウトしてしまった人々が大半だ。それはもちろん経済的理由が主なのだが、経済的理由だけではホームレスにはならない。それだけなら生活保護を受ければいい。何らかの精神的な理由が重なって世捨て人になり、人々は路上生活者となっていく。

そういった人々にアートやスポーツに触れてもらって、100人のうち3人でも5人でも、生きていく気力や労働意欲を取り戻してくれば、これはとても安上がりなホームレス対策なのだ。炊き出しだけでは、当座の命は救えても抜本的な問題解決にはならない。ホームレスを作り出す原因の一つが、人間の精神（マインド）の側面にある以上、そこを改善していかなければ恒久的な解決にはならない。

ホームレスプロジェクトは、身近な問題として捉え<sup>ト</sup>にくいかもしれないが、たとえば次のような事例もある。

私の経営するこまばアゴラ劇場は、数年前から雇用保険受給者に<sup>エ</sup>オオハバ<sup>II</sup>なチケット割引を実施している。実はこれも、ヨーロッパの劇場や美術館ではどこでも、当たり前前<sup>II</sup>にやっている施策なのだ。学生割引や障がい者割引があるのと同じように「失業者割引」がある。

しかし日本では、これまで<sup>①</sup>逆の施策をとってきたのではあるまいか。雇用保険受給者が平日の昼間に劇場や映画館に来たら、求職活動を怠っていると<sup>II</sup>して雇用保険を切ってしまうような施策。A、生活保護世帯の方が劇場に来たら後ろ指を指されるような社会の雰囲気。

百歩譲れば、これにも理由があったのだろう。高度経済成長の時代であれば、景気変動の波はあったとしても、失業から半年も頑張

ればもう一度、確実に望む職に就けた。日本は未だに、そういった右肩上がりの時代の雇用政策を行っている。

いまも人手不足は変わらないのだが、現代日本の抱える雇用問題は「自分に合った職がない」という点に尽きる。

霞が関の住人たち（あるいは一般の市民も）は、製造業の雇用が厳しいのなら、介護には人手が足りないそうだから、そちらに回ればいいじゃないかと考える。しかし、そうはいかないのだ。これまで生真面目にネジを回し続けて、それが日本の産業を支えてきたというプライドのある人たちが、失職したからといって翌日から認知症のお年寄りを相手にするような仕事に就くことは難しい。ここでも問題は、マインドの方なのだ。

デンマークやスウェーデンでは、雇用保険の受給期間が大体一年半〜二年はあって、最初はたとえば演劇やダンスのワークシヨップや農作業体験などを受けさせる。北欧の雇用政策では、最初の職業訓練の段階で人を喜ばせる喜びを感じさせ、マインドを変えてから技術を教える。今の日本の職業訓練は、刑務所の受刑者に「これをやれば食っていけるぞ」と木彫を教え込んでいるのに似たような状態だ。

日本人はまだまだ真面目だから、失職すると多くの人はきちんとハローワークに行つて、一生懸命に職を探す。

しかし、こつこつと製造業で働いてきた方たちにとつて、いそいそと面接に出かけてもなかなか再就職が決まらなると、みな、「自分は今もう社会に必要とされていないのではないか」「真面目に生きてきた自分の人生とはなんだったのか」と思つてしまうそう。世の中の、就職状況の好況や、株高、仮想通貨などの狂乱を見れば、その疎外感は一層高まるだろう。中高年の男性ならば、世間の目も厳しく、「あそこのおじさんは会社に行つてないらしいよ」などと噂もされる。結果として、一定数の失職した中高年男性が引きこもつてしまう。

**B**、精神的なマッチングがうまくいっていないのだ。

現在、日本の社会が抱える大きな問題の一つが、中高年の男性の引きこもり、そして孤独死・孤立死だ。孤独死・孤立死は、社会全体にとつても大きなリスクとコストになる。その部屋は誰も住まなくなるし、周りの人のショックも大きく、近所の人さえ引越してしまふ。それは、勝ち組であるはずの不動産所有者にとつても、個人では負いきれないほどのリスクとコストになる。

だから、私たちは考え方を変えていかなければならないのではないか。失業中の方が平日の昼間に映画館や劇場に来てくれたら、「失業しているのに劇場に来てくれてありがとう。社会とつながっていてくれてありがとう。その方が、最終的に行政や社会のコスト

もリスクも軽減されるからね」というように。あるいは、生活保護世帯がコンサートホールに来たら、「生活が大変なのに音楽を聴きに来てくれてありがとう。家に閉じこもらないでいてくれてありがとう」という社会にしている方が、最終的に社会全体の負担が軽減する。

こういった考え方を「文化による社会包摂」と呼ぶ。

日本は古くから強い地縁血縁型の社会だった。しかし、そのような社会体系は戦後崩れ、企業社会がそれに取って代わった。社宅に住み、社員運動会に参加し、社員旅行を楽しみ、企業年金に守られて、人々は一生を終えると信じていた。しかし90年代以降、グローバル化が進行する中で、企業は労働者を守る必要が、まったくなくなってしまう。

企業社会、あるいはそこへの信仰は崩壊した。ふと振り向くと古き良き地縁血縁型社会（という、これもまた幻想）もない。これが一時流行語にもなった「無縁社会」の正体だ。

**C** 日本には、最後のセーフティネットである宗教もない。ヨーロッパのホームレスは、本当に困ったら教会に駆け込めるのだが、日本にはそれさえもない。要するに日本は、世界の先進国の中で、最も人間が孤立しやすい社会になっているのだ。

いったん人間が孤立してしまうと、行政には、文字通り手の付けようがない。公的な機関と何の接点もなくなってしまうからだ。その中の一定数が、あるとき思いもよらぬ犯罪を起こしたり、あるいは反社会的な行動を起こしてしまう。

繰り返すが、社会とつながっていても、セーフティネットをつくっていくことは、最終的に行政、あるいは社会全体のリスクやコストを軽減させるというのが社会包摂の考え方だ。であるならば、広い意味での文化活動の役割は、今までのような情操教育や生涯学習という視点ではなく、社会政策の一環として捉えられる時代になるのではないだろうか。

社会学の基本的な概念に、ゲゼルシャフトとゲマインシャフトという用語がある。利益共同体と地縁血縁型共同体とも訳される。その双方が、いずれも危機に瀕しているのだ。いや、正直に言えば、日本国民の大半は、まだその双方に属している。あるいは、少なくとも片方には属している。しかし、よく言われることだが、現在の日本社会では、「二つの不幸」が重なる、あつけなく貧困へと転落する。**D** 「倒産やリストラ」と「家族の病氣」あるいは「不合理な転勤命令」と「親の介護」などである。これらはいず

れも、利益共同体と地縁血縁型共同体の双方から遊離したときに起こっている。

だから、その二つの従来型の共同体の間に、「関心共同体」とも呼ぶべき、もう一つの、文化的要素でつながる緩やかな共同体を用意しておく必要があるのではないか。

こういった「文化による社会包摂」の話を、大学の授業では、もう十年以上前から行ってきた。

ただ、私が勤務する大阪大学や東京藝術大学の学生たちは、年を追うごとに、フユウ層、中高一貫校などの出身者の割合が増えている。せめて中学校までも地元の公立校に通っていてくれれば、身近に存在する貧困を感じる機会もあるのだろうが、そういった経験が徐々に減ってきていることを実感する。

社会の分断が進み、貧困は隠蔽される。極めて少数ではあるが、学生の中には、失職や生活保護は「自己責任」ではないかと公然と言う者も出始めている。

そこで私は近年、授業の中で、以下のような説明を付け加えることにした。

「ホームレスの方たちの話は、君たちにとっては遠いイメージかもしれない。生活保護さえも一生縁のない人が多いと思う。では、こういう説明ではどうだろう。」

たとえば子育て中のお母さんが、子どもを保育所に預けて劇場に芝居を見に行く<sup>⑤</sup>と後ろ指を指される社会と、生活保護世帯が劇場に来ると後ろ指を指される社会は、深いところで、その排除の論理はつながっていると私は思う」

杉並区では、保育園に子どもを預けた母親がファミレスで談笑していただけで通報されたという噂が多くの人に信じられている。私  
はこれは、都市伝説の類だと思うが、子どもを持つ劇団員たちに聞くと、みな口を揃えて「それくらいのことはおおかしくない」と言う。実際、今年（2018年）の初頭にも、タレントの辻希美さんが、子どもを保育園に預けてスポーツジムに行ったことがネット上で批判を浴びるといふ事件も起こっている。いつから日本は、これほどに世知辛い国になってしまったのか。

子どもを保育園に入れるための、いわゆる「保活」を続けている母親たちは、そのあまりの切実さに、「子どもを産んだこと自体が間違いだったのではないか」と感じてしまうそうだ。子育て中の母親もまた、孤立しやすい存在なのだ。

（平田オリザ「若い女性に好まれない自治体は滅びる―『文化による社会包摂』のすすめ」による）

問一 二重傍線部ア、オのカタカナを漢字に直せ。楷書で丁寧を書くこと。

問二 空欄 A B C D を補うのに最も適当なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。ただし、同じ記号を繰り返し用いてはならない。

ア・それでも イ・しかも ウ・たとえば エ・あるいは オ・だから カ・要するに

問三 傍線部①「逆の施策」とあるが、これはどういうことか。「逆」の関係を明らかにして五十字以内で説明せよ。

問四 傍線部②「現代日本の抱える雇用問題」として、筆者は現代のどのような状況が問題と考えているか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

ア・グローバル化と情報技術の革新が進行して、旧来の人の手による技術が軽んじられてしまい、以前に身につけた自分の技術が活かせない状況。

イ・人手不足になるほど数多くの職があるなかで、その多様さから自分の望む本来の目的を見失って、やりがいのある仕事がかたなくなっている状況。

ウ・今まで経験したことのない仕事に挑戦するもうまくいかず、その結果仕事に対する情熱を失ってしまい、定職に就かず再就職を繰り返す人が増えている状況。

エ・失職しても人手の足りない雇用先に就職すればいいとされ、働く側の精神的な部分が考慮されないまま、再雇用先を探さなければならぬ状況。

オ・一生懸命に職を探し努力している人が、職がないために世間の人たちから見下されて、自宅から出られず引きこもりになってしまう状況。

問五 傍線部③「最も人間が孤立しやすい社会」とあるが、なぜ日本はこのような社会になったのか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

ア・インターネットの技術革新がすすみ、公的な機関と直接接触しなくても暮らしが成り立つから。

イ・個人が共同体としての地域や企業から排除されてしまうと、社会とつながる方法のほとんどを失うから。

ウ・他国よりもムラ社会的な排他意識が強いため、閉鎖的社会となりお互いの疎外感が高まりやすいから。

エ・自分の共同体を守るために異質なものを攻撃する傾向があり、多数対個人の構図に陥りやすいから。  
オ・少子高齢化と核家族化が進行したために、ゲゼルシャフトもゲマインシャフトも崩壊してしまったから。

問六 傍線部④「失職や生活保護は『自己責任』」とあるが、筆者が貧困の転落が自己責任ではないとする理由の説明として最も適当

なものの中から一つ選び、記号で答えよ。

ア・予期せぬ共同体からの脱落によって起こり、それは個人では解決できない要因によって導かれるから。

イ・文化活動が自己満足的な活動と思われており、その正しい役割が世間一般にまで広まっていないから。

ウ・共同体への不適合によって起こり、それは社会制度によって個人が救済されるべき問題だから。

エ・企業からの離脱によって起こり、企業の倒産は経営陣の責任であり従業員の責任ではないから。

オ・本人の努力不足によって起こり、それは教育や行政などの指導が不足していることが原因だから。

問七 傍線部⑤「その排除の論理はつながっている」とあるが、これはどういう点でつながっているのか。「文化活動」の役割を明らか

かにして、百字以内で説明せよ。

問八 本文の内容を説明したものとして最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

ア・先進国のホームレスは経済的な理由で社会とのつながりを失っており、わずかな生活保護の支給だけでは解決することができず、恒久的な支援が必要である。

イ・高度経済成長のころは、失業したとしても自分の経験を活かす場が用意されており、自分に合った職に就くことが容易であったため、ハローワークに行つて職を探す必要はなかった。

ウ・セーフティネットとしての地縁共同体を回復させるために、失業者が情操教育や生涯学習に参加して、社会の一員として社会とつながり続けていくことが求められている。

エ・現代の日本は貧困を身近に感じる機会を失うほど経済的に発展しているので、貧困の苦しさを自分のこととしてとらえることができなくなっている。

オ・現代の日本では、子育て中の母親は自分よりも子どものことを優先するべきだという母親に対する社会的不寛容が広がりつつあり、子育てを後悔する母親もいる。

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

前に私が大きく拍子ぬけした話は、案外母のお気に召したらしい。それまで、

「やっぱり富士高（まじ）はいいわ。誰も私のこと、作家の子だからどうこうって言わないのよ」

と言っていたのが、ある日複雑な面持ちで、

「皆、アリヨシサワコなんて、知らないんだって」

と事の真相を報告した時、私の内心は怒濤（どとう）のようだったのに、母自身は A と笑いとばしたのである。人の気も知らないで。そして、面白がってよく話のタネにしていたものだ。けれど、高校生もワクワクして読むようなものを書きたいなあ、とも言っていた。

高校も卒業式が終わると、することが何もなく、なんとはなしに友達と集まる日が続いていた。その日も、これからコンパに出かけようとしていたら、母が、

「二次会、うちでやったら？ お金がかからないし、いいじゃない。友達、うちに連れていらっしやいよ」

と言ひ募ってきた。

もともと、若者には興味があるようではあった。ずいぶん前、母の書齋にゆくと少年雑誌がたくさん置いてあって、私は当時連載中の「はだしのゲン」や「ハレンチ学園」などを愛読したものである。ある時ふと、どうしてこんな本がここにあるのだろうと疑問を抱き、聞いてみたら、

「若い子が、どんなの読むのかなーと思って」

と言ったのを覚えていたから、今回も作家としての興味が働いているのかと思いきや、どうもそれだけではいようだ。私が、じゃあ誘ってみるね、と一応承諾したら、まだ来ると決まったわけではないのにつきりその気ではしゃいでいる。

「皆来たら、何て言おうかなあ。私、有吉佐和子と申しまして、小説なんかを書いている者ですって言おうかなあ」

いぶかしい感じがしないでもなかったが、約束の時間が迫っていたので、小躍りaしている母を尻目（しりめ）に私はひとまず家を出た。

一次会もそろそろ終わり、二次会の場所に皆が知恵を出し合う頃、私は、実は母が……ときりだした。といっても積極的に誘ったわけではなく、二次会の場所の一案、程度の口調である。友達は互いに顔を見合わせて、じゃあ行ってみようかということになった。

友達大勢を家につれて帰る道すがら、私は自分の足取りのとても軽いことに気がついた。スキップよろしく調子よく、先頭に立って歩く私は、時々うしろ向きに歩いたり、<sup>①</sup>我ながら楽しそうである。

思えばこうなる迄、長く険しい道のりであった。

人に「作家の子」といわれるのが嫌で、母を恨み、宝塚をめざし、聞かれても「私は作家の子ではありません」と嘯<sup>ほくそふ</sup>いていたこと。

実は、作家といっても人は、名前を知っているだけのことだと知ってがっくりしたこと。自分史の名場面が走馬燈<sup>そうまとう</sup>のようによみがえってくる。ある日、自分を「作家の子」にしているのはこの自分だということに気付き、つまらない自意識から解放されて今、私は晴れて作家の母を友達に紹介するのである。たとえ友達が興味本意で来ようとも、以前なら追い返したところだろうが、構わない。「作家って、どんな人種なのだろう」、青年らしい至極健全な興味ではないか。大歓迎である。

けれども、おそらく母は彼らの期待を裏切るだろう。世間では作家で通っていても、一歩家に入れば、私の母だ。彼らの母親と何かわらない、娘の一拳一動にハラハラし通<sup>b</sup>しの市井<sup>しけい</sup>の一母親である。私はそれを見せたかった。友達の意表をつかれた顔が楽しめで、それが私の足取りを、軽く我が家へ向かわせている理由かもしれない。

ところが、である。

友達大勢を迎えたその人は、私の母親であるはずが、どこかの作家だったのである。<sup>②</sup>家の応接間は、コンパの二次会になるどころか、有吉佐和子先生をお迎えしての講演会場と化した。文壇とはどういうところか、に始まって、本の出版事情、業界の最近の動向など、私がこれまで聞いたことのないような話を次から次へと面白おかしく講義する。友達ものつてきて、そのあとシンポジウムになった。話は国際政治、経済問題と際限なく広がってゆく。友達もなかなかうまくパネラーを務めたので、母は私一人を相手にするよりも数倍楽しい一時を満喫しているようだった。

しかし、私は不愉快である。

ちよっとおつまみなんかを B と出しに来て、「ごゆっくりね」と愛想をふりまいてうまいこと引っ込む、そんな母親を期待

していた私の気持ちはもの見事に裏切られた。さあ、どうぞどうぞ、と食べ物すすめ、そのまま母がどつかり腰を下ろした時の悪い予感の中しただ。それでも、まさかここまでやるとは思わなんだ。

楽しそうな母の眼差しは、たまに私の不快の眼差しと出逢いそうになったが、あちらが避ける前に、こちらから睨みつけてやった。それでも母は腰を上げるでなし、事態はいっこうにかかわらず、動揺して腰を上げたのは私の方である。そうして私はしよっちゅう、客間と台所を行ったり来たりしておつまみを足したり、おしほりを出してきたりと、まめめしく働いたのだ。私こそ、将来お豆を

C 煮るような、子供に慕われ、その友達にまで慕われる母親になれる人なのだ。  
友達は、実に刺激的なお母さんだと言って帰って行った。私の中では、母親の風上にもおけなかつたその日の母が、友達にとつては「玉青のお母さん」だったことが、せめてもの救いであつた。

皆を途中まで送っていつて家に帰ると、母はまだ応接間にいた。今宵は実に楽しかつたと、こちらの無然たる胸の内などおかまひなしに余韻に浸っている様子である。それを見たら、堪忍袋の緒が切れて、一体これはどういうことよ、と噛みついた。

するとこの母は、

④「あら、あなた妬いてるのね」

と小猫のように首をすくめて見せた。そのそぶりは抱きしめたいほど可愛くて、女子大時代たいそうモテたといういつもの自慢話も、なまじ嘘ではないように思われた。

そして、母は笑つてこう言つた。

「あなた、モテンのねーえ。こんなに男の子が集まつて」

残念ながら、そういうわけではなさそうだ。これは一次会から流れてきたからこうなつたわけで、私目当てなわけではない。それを言うなら、まだ母目当てという方が近いようで、喜ぶべきは、それを承知で喜んで連れて来た私の成長である。けれども私が見せたかつたのは、今日のあなたではなかつたわ。よくもまあ、裏切つてくださつて。

母の魅力に散らされそうになつた怒りをかき集め、何か言おうと口を開けたら、その口を封じるように母がこう言い出した。

「××君、あの子はなかなか面白い子だ。○○君、あれは優秀だねえ。△△君、あの子はなんだか不思議な魅力のある子だ。○×君、

あの子はいいネ、ああいう子と結婚するといいかもしれない。△○君は、Dしてはくれないかもしれないけど、あの子もよさそう」

どうやらいろいろ話しながら、私の花婿候補を捜していたようである。⑥変な人。でも変な、母親である。

(有吉玉青「身がわり 母・有吉佐和子との日日」による)

(注1) 富士高 …… 「私」の通う学校。

(注2) 嘯く …… とほけて知らぬ顔をすること。

問一 空欄A Dに当てはまる語として最も適当なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。ただし、同じ記号を繰り返し用いてはならない。

ア・ちやほや    イ・わらわら    ウ・ふくふく    エ・いそいそ    オ・けらけら

問二 二重傍線部 a 「小躍り」・ b 「市井の」・ c 「慥然たる」の意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

a 「小躍り」

- ア・体をゆすつて喜びを表すこと
- イ・高まる期待に胸が震えること
- ウ・不満に思っていきり立つこと
- エ・嬉し<sup>うれ</sup>しさのあまりはしゃぐこと
- オ・緊張から落ち着きを失うこと

b 「市井の」

- ア・世間一般の
- イ・日常生活の
- ウ・人並み外れた
- エ・ごく平凡な
- オ・つまらない

c 「慥然たる」

- ア・苛<sup>いらだ</sup>立ちを隠せない
- イ・意外なことに失望した
- ウ・つかみ所なく曖昧な
- エ・心に恨みを抱えている
- オ・きつぱりと拒絶している

問三 傍線部①「我ながら楽しそうである。」とあるが、この場面で「私」自身が期待していることとは何か、六十字以内で説明せよ。

問四 傍線部②「家の応接間は、コンパの二次会になるどころか、有吉佐和子先生をお迎えしての講演会場と化した」とあるが、この

状況を表す四字熟語として最も適当なものを次の中から選び、正しい漢字に直して答えよ。

(キソウテンガイ ・ ハツポウビジン ・ イツシヨクソクハツ ・ シュカクテントウ ・ シリメツレツ)

問五 傍線部③「玉青のお母さん」だったことが、せめてもの救いであった」とあるが、これはどういうことか。説明として最も適

当なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

ア・「私」にとつて苦手に思ってきた作家としての側面が、友人にとつては自分の母親の要素の一つとして受け入れられていることが、予想外にありがたいことに思えたということ。

イ・まったく母親らしい態度に見えなかったにもかかわらず、そしらぬ様子で自分の母親として扱ってくれる友人の優しい配慮が、ほんの少しでも「私」にはありがたかったということ。

ウ・自分勝手なふるまいをする「母」の代わりに「私」が友人たちをもてなすことによつて、なんとか普通の母子の関係として友人に扱ってもらえただけでもよかつたということ。

エ・世間の母親には及ばないにせよ、「母」が友人たちに少しでも「私」が期待したような母親らしさを見せてくれたことが、「私」自身にとってはやはりうれしいことであつたということ。

オ・どんなに母親の行動が「私」の期待に添うものでなかつたにしても、友人がまぎれもなく自分の母親として認識してくれたことはまだありがたいことであつたということ。

問六 傍線部④「あら、あなた妬いてるのね」とあるが、このときの「母」の心情の説明として最も適当なものを次の中から一つ選

び、記号で答えよ。

ア・若者の考えを知りたいという作家としての興味だけで、娘の大切な交友の機会を奪ってしまったことに対する気まずさを感じたために、娘の異性問題に結びつけてとぼけてみせている。

イ・娘に対して近づいてくる異性の友人たちを結果的に独り占めにしたことを気まずく感じつつも、自分が恋敵になったかのようになげさな言い方をしてその場を取り繕おうとしている。

ウ・娘に対して近づいてくる異性の友人たちを独り占めにして、交流を楽しみながら彼らの魅力についていろいろと品定めしたこ

とを気まずく感じて、冗談でごまかそうとしている。

エ・自分が思っていた以上に娘の友人付き合いに異性の友人が多いことに戸惑いながらも、老境に差しかかった母親の自分がその邪魔をしたことになっていることにおかしさを感じている。

オ・娘が怒りを感じている理由が分からず戸惑いを感じながらも、娘の友人たちが自分との交流を選んだのは作家としての自分の魅力によるものだと考えて、譲らず強がって見せている。

#### 問七

傍線部⑤「それを承知で喜んで連れて来た私の成長」とあるが、これはどういうことか、八十字以内で説明せよ。

#### 問八

傍線部⑥「変な人。でも変な、母親である」とあるが、この言葉から読み取れる「私」の心情を説明したものととして、最も適当

なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

ア・母親が、娘として家で接するなかでは普段感じることの少なかつた特別な魅力を持った人物であることを再確認しつつ、娘のことを思いやる気遣いには世間の親と変わらない温かさを感じている。

イ・卒業式の後の友人たちとの語らいの機会を台無しにしてそしらぬ顔で済ます母親の人格は到底受け入れることはできないが、それでも娘の将来のことを考えていることを知って意外に思っている。

ウ・母親自身に悪気があったわけではないことに安心した一方で、娘の異性の友人の人格について探りを入れるという一般的な親では考えもつかないような不思議な気配りのしかたにあきれている。

エ・自分の親ながらもその日の言動については理解をすることができず受け入れがたかったものの、その一方で自分の結婚相手について思いをめぐらせていた点については母親として評価している。

オ・娘が自宅に連れて来る青年たちの性格や考えている内容を、作家としての興味からだけでなく、娘の精神的な成長を見抜いて親として知りたいと考えていた母親の並外れた洞察力に驚いている。

三

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。なお出題の関係上本文を一部改めた部分がある。

不誠実である正太郎は故郷の妻を見捨てて新しい恋人と駆け落ちし、いとこの彦六を頼りにして暮らしていた。その後、故郷の妻は正太郎への強い恨みによって鬼となり、正太郎の恋人を呪い殺し、正太郎の命もねらうようになってしまう。困った正太郎は物事の吉凶を占う陰陽師に相談し「今日から四十二日間は家にこもり外に出てはいけない」との助言を受けた。

明くれば夜のさまを語り、暮るれば明くるを慕ひて、この月日ごろ<sup>①</sup>千歳を過ぐるよりも久し。かの鬼も夜ごとに家をめぐり、あるは屋の棟に叫び<sup>a</sup>て、怒れる声夜ましにすぎまし。かくして四十二日といふその夜にいたりぬ。今は一夜にみたしぬれば、ことに慎みて、やや五更の空もしらじらと明けわたりぬ。長き夢のさめたるごとく、やがて彦六をよぶに、壁によりて「いかに」と答ふ。「おもしき物いみもすでに満ぬ。絶て兄長の面を見ず。なつかしさに、かつこの月ごろの愛さ怖ろしさを心のかぎりいひなくさまん。眠さまし給へ。我も外の方に出でん」といふ。彦六用意なき男なれば、「今は何かあらん。いざこなたへわたり給へ」と、戸を開くる事半ばならず、となりの軒に「あなや」と叫ぶ声耳をつらぬきて、思はず尻居に座す<sup>b</sup>。

こは正太郎が身のうへにこそと、斧引提げて大路に出づれば、明けたるといひし夜はいまだくらく、月は中空ながら影朧々として、風冷やかに、さて正太郎が戸は開けはなしてその人は見えず。内にや逃げ入りつらんと走り入りて見れども、いづくにかくるべき住居にもあらねば、大路にや倒れけんともとむれども、そのわたりには物もなし。

〔雨月物語〕による

(注1) 五更 … 午前四時から午前六時頃の時間帯のこと。

(注2) 物いみ … 一定期間、ある物事を不吉として避けること。ここでは家にこもり外に出ないこと。

(注3) 兄長 … 年上の親しいものを示す語。

(注4) 尻居 … 尻もちのこと。

(注5) 朧々 … ぼんやりと明るい様子。

問一 二重傍線部 a、c の主語は誰か。最も適当なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。ただし同じ記号を繰り返して用いてもよい。

ア・正太郎    イ・彦六    ウ・新しい恋人    エ・鬼    オ・陰陽師

問二 傍線部 A「やがて」・B「こなたへわたり給へ」の解釈として最も適当なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

A「やがて」

ア・もう一度  
イ・すぐに  
ウ・しばらくして  
エ・やっと  
オ・ずいぶんたつて

B「こなたへわたり給へ」

ア・こちらへ来て下さい  
イ・こちらへ行って下さい  
ウ・こちらへ参りましょう  
エ・こちらから行きましょう  
オ・どこかへ行ってしまいましょう

問三 傍線部①「千歳を過ぐるよりも久し」とあるが、このように感じた理由を説明したものと最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

ア・鬼におびえながら家に引きこもる毎日の中で、精神的に追いつめられてきたから。  
イ・外出できず一人で何もすることがないので、暇をもてあましてしまっているから。  
ウ・長い期間ではあったが、今から振り返れば一瞬の出来事のように感じられたから。  
エ・あまりに長期間家にこもっていたことで、外に出ることがおっくうになったから。

オ・あと少しで鬼から解放されると思うと、やりたいことが次々と浮かんで来たから。

問四 傍線部②「憂さ怖ろしさ」の内容を表す具体的な一文を本文中から探し、最初の五字を抜き出して書け。

問五 傍線部③「大路に出づれ」とあるが、その理由を三十字以内で答えよ。

問六 傍線部④「明けたるといひし夜はいまだくらく」とはどういうことか、四十字以内で答えよ。

問七 本文の内容として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

ア・外に出たと思わせ屋内に隠れることで、正太郎は鬼から逃れることができた。

イ・鬼は一日中、正太郎の家の周りをうろついて怒りの声を上げ続けていた。

ウ・危険を察知した正太郎が急いで扉を開けたが、そこに彦六の姿はなかった。

エ・正太郎は、陰陽師の言いつけを守れず、自身を危険にさらすことになった。

オ・彦六の冷静な判断によって、正太郎はなんとか危機を避けることができた。